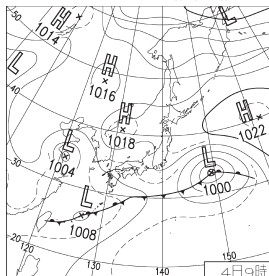


日々の天気図

— No. 77

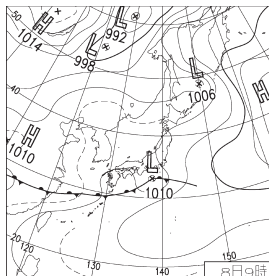
2008年6月

- ・2日～3日、梅雨前線の影響で九州南部大雨、屋久島319.5mm/24h。
- ・11日、梅雨前線の影響で九州大雨、熊本県西原村319.5mm/24h、阿蘇市302mm/24hなど。
- ・29日、梅雨前線の影響で東～西日本で大雨、高知県馬路村352.5mm/24h、安芸市311mm/24hを記録。
(気象庁予報部予報課)



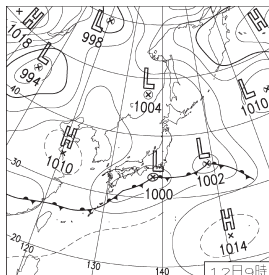
4日(水)北海道内陸部で雷雨

日本の東海上に前線を伴った低気圧があり東進。北海道は晴れ、日中気温が上がり夕方内陸部で雷が発生。本州は概ね曇り、南西諸島や九州南部から紀伊半島の沿岸で雨。



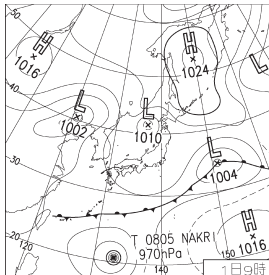
8日(日)低気圧本州南岸を通過

熱帯低気圧から変わった低気圧が本州南海上を通過。東海、関東の南岸は昼頃まで雨。東北～北陸、近畿は日中晴れ。九州南部は、午後から夜にかけ強い雨。



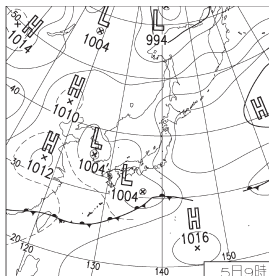
12日(木)関東の大雨

11日九州に大雨を降らせた梅雨前線の低気圧が関東の南海上まで東進。関東が大雨になり群馬県伊勢崎市では観測史上1位となる100mm/3hの激しい雨を記録。



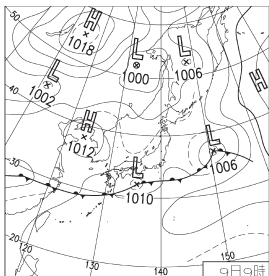
1日(日)台風第5号北上

本州付近は概ね晴れ。沖縄地方は、梅雨前線の影響で曇りや雨の天気。日本の南海上を北上する台風第5号の影響で、大東島地方でうねりを伴い波が高まる。



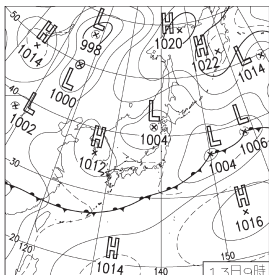
5日(木)太平洋側南東斜面大雨

上空に寒気を伴った低気圧が日本海を北東進。高気圧に覆われた北海道を除き曇りや雨。徳島県阿南市蒲生田67.5mm/1hなど、西日本太平洋側の所々で非常に激しい雨。



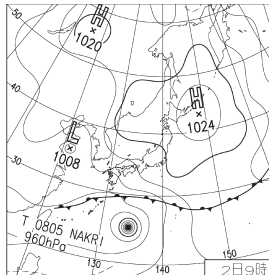
9日(月)上空に寒気流入

梅雨前線を低気圧が東進。静岡県浜松市の上空約5700m付近で-15℃以下など上空に寒気流入し大気不安定。東～西日本の所々で雷雨。三重県孤野町雲母峰46.5mm/1hの激しい雨。



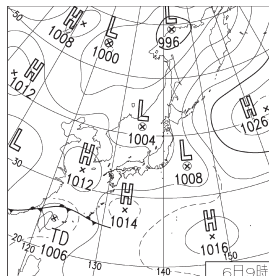
13日(金)青森県で竜巻発生

上空に強い寒気を伴った低気圧の影響で、北日本は所々で雷雨。青森県藤崎町では竜巻発生。梅雨前線に近い沖縄も雷雨。その他は晴れて、岡山県真庭市久世で最高気温34.0℃。



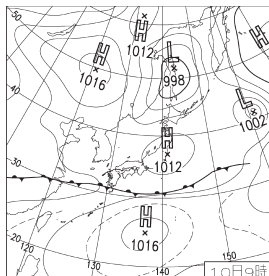
2日(月)関東甲信梅雨入り発表

北日本は沿岸部の霧を除きおおむね晴天。台風第5号の接近に伴い梅雨前線が北上。近畿地方、東海地方、関東甲信地方に梅雨入りを発表。屋久島で日降水量303.5mmを記録。



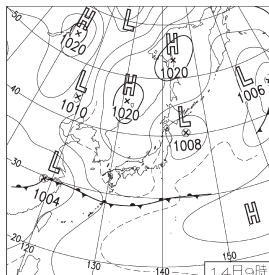
6日(金)梅雨の晴れ間

日本海の寒冷低気圧の影響で東北地方以北は雨、関東以南は高気圧に覆われ梅雨の晴れ間。先島諸島付近には熱帯低気圧。東京都千代田区は27.6℃と6月に入って初の夏日。



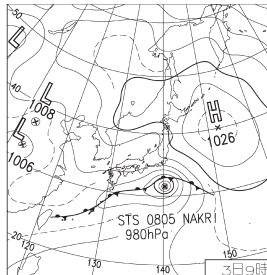
10日(火)梅雨前線北上

梅雨前線が東シナ海で北上。九州は鹿児島県指宿市54.5mm/1hなど所々で非常に激しい雨。山口県を含む九州北部に梅雨入りを発表。北海道は気圧の谷が通過し、午後所々で雨。



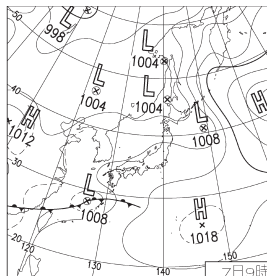
14日(土)岩手・宮城で震度6強

岩手県内陸南部の宮城県境で08時43分頃、M7.2の地震発生。岩手・宮城等東北5県で震度5弱～6強。本州中部は晴れて気温上昇、北日本や西日本は梅雨前線の影響で曇りや雨。



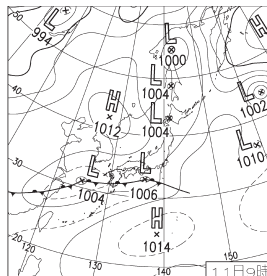
3日(火)台風第5号温低化

南西諸島や関東は前線の影響で終日雨。西日本の雨雲は昼頃には抜ける。北海道は晴れ。台風第5号は、八丈島に接近後温帯低気圧に。八丈島の最大瞬間風速は30.7m/s。



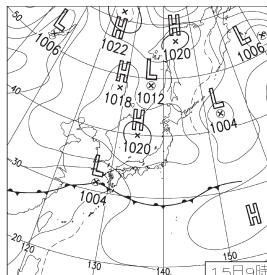
7日(土)南西諸島大雨

東日本は高気圧に覆われ晴天。西日本と南西諸島は前線や低気圧の影響で曇りや雨の天気。特に熱帯低気圧の接近した石垣島では雷を伴い82mm/1hの激しい雨を観測。



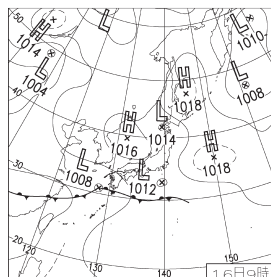
11日(水)中国梅雨入り発表

梅雨前線が東シナ海から九州南部を通過して関東の南海上に停滞。九州で熊本県西原村319.5mm/24hなどの大雨。一方、東日本から北日本ではときどき晴れた。



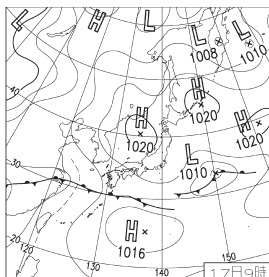
15日(日)前線上の低気圧東進

東シナ海の梅雨前線上を低気圧が東進。西日本太平洋側～南西諸島は雨。鹿児島県枕崎市43mm/1hなど九州南部は激しい雨となった所も、北日本を気圧の谷が通過。北海道は夜雨。



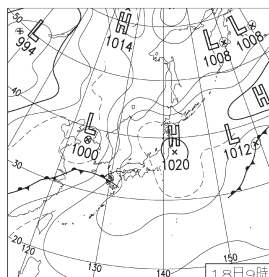
16日(月)鹿児島で大雨

九州南部に停滞する梅雨前線が活発化。鹿児島県種子町中種子では、68 mm/1h の非常に激しい雨。北日本は高気圧の影響で曇り、東日本、近畿、中国は晴天が続いた。



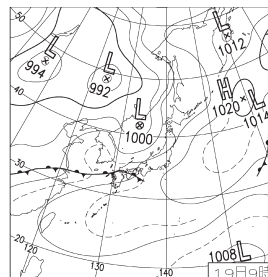
17日(火)沖縄に夏到来

九州は南海上に梅雨前線が停滞し曇りや雨。その他の地方は高気圧に覆われおおむね晴天。太平洋の高気圧が勢力を強め沖縄地方の梅雨明けが発表される。



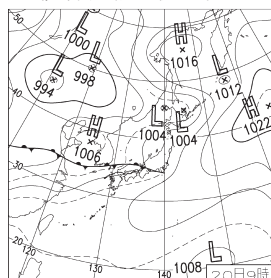
18日(水)西は雨・曇り 東は晴れ

北日本や関東は穏やかな晴れ。南西からの暖気が流入した沖縄、九州、山陰の沿岸部などで真夏日。西日本や東海、北陸は前線や高気圧縁道の湿りの影響で曇りや雨。



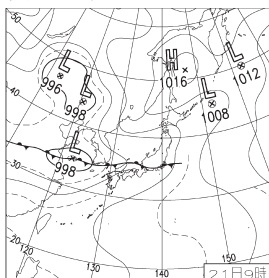
19日(木)九州北部で大雨

梅雨前線は九州北部から紀伊半島までのびている。九州北部は活発な前線の影響で大雨。佐賀県嬉野市で83.5 mm/1h の猛烈な雨。北陸および東北南部・北部に梅雨入り発表。



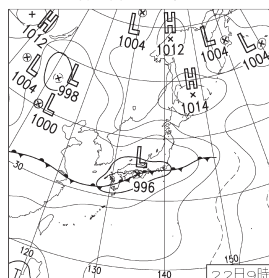
20日(金)西日本の日本海側 大雨

梅雨前線は山陰沿岸まで北上。暖かく湿った空気が入り、九州北部～近畿は日本海側を中心に大雨。東海でも三重県伊賀市59.5 mm/1h など非常に激しく降った所も。



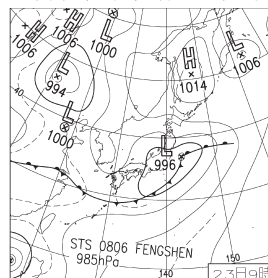
21日(土)九州北部で再び大雨

九州北部は梅雨前線の活発化に伴い、20日昼頃から短時間強雨を伴った大雨が降り、各地で浸水災害などが発生。熊本県甲佐町では日降水量273.5 mm を観測。



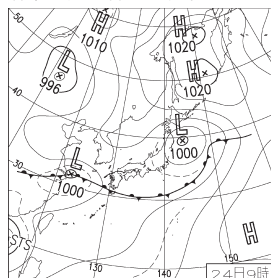
22日(日)本州の南岸で大雨

梅雨前線は本州の南岸にかけてゆっくり南下。西日本から東日本にかけて雨。九州では土砂災害も発生し、熊本県湯前町では153 mm/3h の激しい雨を観測。



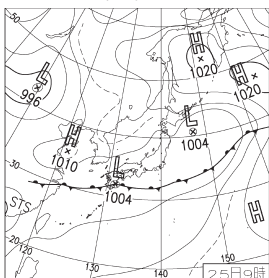
23日(月)関東、東海で雷雨

大雨をもたらした低気圧は東海上に抜けるが、東日本上空に寒気流入し、大気の状態不安定。静岡県、長野県などで激しい雨や雷雨。北日本や九州は高気圧に覆われて日中晴れ。



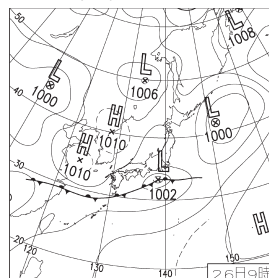
24日(火)東北と九州で激しい雨

三陸沖に低気圧。梅雨前線が九州の南海上を通って大陸へ。北日本や九州南部で雨。鹿児島県や岩手県では激しい雨の所も。その他は気圧の峰になった関東中心に晴れの所多い。



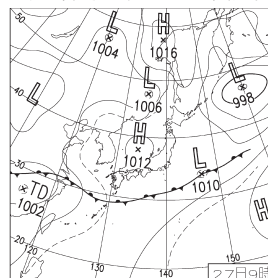
25日(水)台風第6号熱低に

梅雨前線は日本の南海上に停滞。前線上の九州付近を低気圧が通過。四国や近畿の太平洋側と九州は所々で激しい雨。南西諸島も暖かく湿った空気が入り曇りや雨。



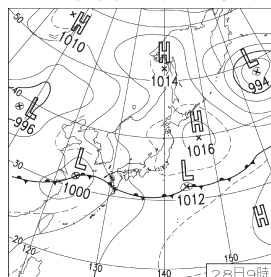
26日(木)梅雨寒

南岸に停滞する梅雨前線上を低気圧が東進。関東では北東風が吹いて弱い雨が続き、4月中旬から下旬の寒さの所があった。その他の地方は晴れまたは曇り。



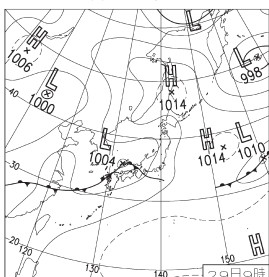
27日(金)梅雨の中休み

梅雨前線が華中から南西諸島を通り本州の南海上に停滞。前線活動も活発ではない。九州地方から北海道地方にかけて高気圧に広く覆われ晴れや曇りの天気。



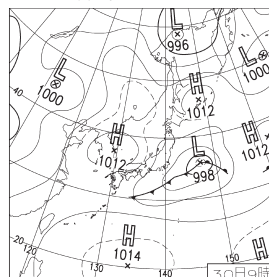
28日(土)西日本 再び大雨

梅雨前線が北上し九州へ。東シナ海から活発な雨雲が西日本に広がる。九州北部や高知県は40～50 mm/1h の大雨。北日本は高気圧に覆われて晴れ。東日本も日中は曇りや晴れ。



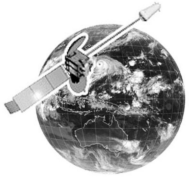
29日(日)四国～関東沿岸で大雨

梅雨前線が中国を経て、関東南岸へのがぶる。西日本太平洋沿岸部を活発な雨雲が東進。徳島県美浜町96 mm/1h、高知県馬路村93 mm/1h の猛烈な雨。



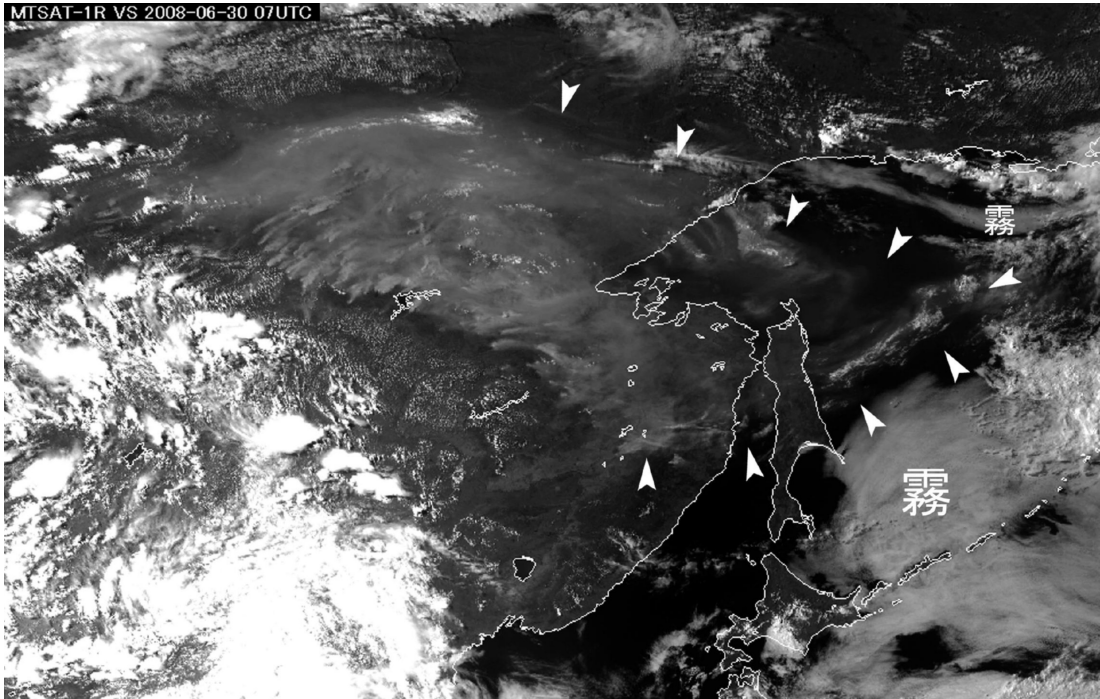
30日(月)低気圧関東東海上へ

前日雨をもたらした低気圧は東海上に抜け、梅雨前線が本州の南海上まで南下した。全国的に日本海に中心を持つ高気圧に覆われて、東海を除き晴れや曇りの天気。



今月のひまわり画像—2008年6月

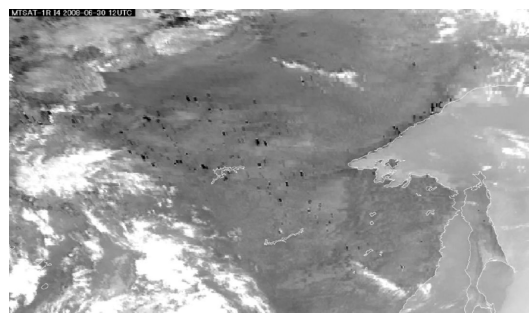
シベリアの森林火災



2008年6月30日16時（JST）の可視画像。煙は楔型で示した付近まで拡がっている。

世界各地で年々増加している森林火災。中でもシベリアタイガ（針葉樹林）の森林火災は規模が大きく、その焼失面積は、世界の森林火災の半分近くを占めると言われている。

上の画像は6月30日16時（日本時間）の可視画像で、森林火災による煙を識別しやすくするためコントラストと明るさを調整してある（中国東北区等にある対流雲は白くとんでいる）。画面中ほどから左上にかけて灰色に写っているのが煙で、多数の火災箇所から立ち昇った煙が東方に流れ出しているのがわかる。煙はオホーツク海中央付近（楔型で示した範囲）まで識別でき、およそ東西2000 km 南北1000 km の範囲に拡がっている。なお、オホーツク海北部と南部、千島近海に見える表面が滑らかでやや白い雲域は、霧（または層雲）である。可視画像が利用できない夜間は煙の識別は困難であるが、赤外4（ $3.8\mu\text{m}$ ）画像を用い



2008年6月30日21時（JST）の赤外4画像。

ると火災箇所は周囲より温度が高いホットスポットとして検出が可能となる。右下の画像で黒い点がホットスポットであり、多数の火災箇所があることがわかる。

（気象庁予報部予報課 小池仁治）